**ジョージ・オーウｴル**

全体主義的ディストピアの世界を描いた『1984年』の作者で知られる。『1984年』のような世界を描いた監視管理社会を「オーウェリアン」と呼ぶ。また、社会主義社会の変質を告発した「動物農場」も有名だ。

**小説「１９８４」**

“ビッグ・ブラザー”率いる党が支配する全体主義的近未来。ウィンストン・スミスは真理省記録局に勤務する党員で、歴史の改竄が仕事だった。彼は、完璧な屈従を強いる体制に以前より不満を抱いていた。ある時、奔放な美女ジュリアと恋に落ちたことを契機に、彼は伝説的な裏切り者が組織したと噂される反政府地下活動に惹かれるようになるが…。

二十世紀世界文学の最高傑作。

1984年・舞台

ときは1984年。世界は**オセアニア、ユーラシア、イースタシアの三大国**によって分割統治されています。


『1984年』内の世界地図　画像出典：Wikipedia

オセアニアは「**イングソック**」(**English Socialism**の略)というイデオロギーにもとづいた一党独裁体制で、支配しているのは「**ビッグブラザー**」。

階級社会になっており、ビッグブラザーを頂点に、エリート層の「**党内局**」の人間、中間層の「**党外局**」の人間、最下層に「**プロレ（プロール）**」が位置づけられています。


オセアニアのヒエラルキー　画像出典：Wikipedia

街中には「ビッグブラザーはあなたを見ている」という巨大なポスターがいたるところに貼られ、市民はテレスクリーンと呼ばれるテレビと監視カメラを兼ねたような装置で24時間監視下に置かれています。

**『1984年』のあらすじをネタバレなし・3行で表す**とこんな感じです。

・ 主人公は党外局員として働く**ウィンストン**
・ウィンストンは党の監視下の生活や独裁体制に疑問を抱く

・ウィンストンは同様の思想を持つ党員と出会い、党の転覆を目論む「**ブラザー同盟**」に加盟するが…

1984年・あらすじ（ネタバレあり）

・ウィンストンはある女性につけられていると気づき、彼女が**思考警察**なのではないかと疑う
・彼女は**ジュリア**。ウィンストン同様党に反発心を持っており、彼の思想を見抜いて好意を抱いていた
・ウィンストンはジュリアに告白され、隠れ家としていた**チャリントン**の骨董屋で逢瀬を重ねる
・かねてから実は反体制派なのではないかと思っていた党内局員の**オブライエン**が、ウィンストンに接近
・オブライエンはブラザー同盟の一員であり、ウィンストンとジュリアを仲間に引き込む
・ウィンストンとジュリアは相変わらずチャリントンの骨董屋で密会していたが、そこには**テレスクリーン**が仕込まれており捕まってしまう
・実はオブライエンはブラザー同盟ではなく、ウィンストンにカマをかけていただけだった
・ウィンストンはオブライエンから拷問を受け、ジュリアを裏切る
・「正統」な人間となったウィンストンは釈放され、心からビッグブラザーを愛するようになる

さいごには何らかの救いがあるのかなと思いながら読み進めていたんですが、結局ハッピーエンドにはなりませんでした。そもそもなにが「ハッピー」なのか、という当たり前の概念すらあらためて見つめ直さなければいけないような物語でしたが。

名言集

最も速やかに戦争を終わらせるには、負ければいい。

参考　マークトウエイン（トムソーヤの著者）

賭け事をしてはならないときがある。それは、お金のあるときとないときだ。

作品紹介「動物農場」

残忍で無能な農場主に虐げられてきた動物たちは、2匹の有能な豚スノーボールとナポレオンをリーダーとして革命を起こす。「すべての動物は平等である」という理想を掲げ、人間を追放し、自ら農場経営に乗り出す。順調に滑り出したかに見えた「動物農場」だったが、幸せな日々は数ヶ月しか続かなかった…。
　古きよきヨーロッパのアート感覚とイギリス独特の牧歌的な風景。また乱暴なまでのグロテスクさで描き出される動物たちの心理描写、擬人化された動きや表情が作り出すアートアニメーションとして完成度は非常に高く、そこに描かれた世界は、格差社会など、まさに現代日本の支配構造と重なっていた。
ジョージ・オーウェル原作による永遠不変の権力の寓話を、ヨーロッパ最大のスタジオであった伝説のハラス＆バチュラーが描いた、イギリス初の長編アニメーション。